

時代の流れ

JJ1SXA 池

以下は、HP(http://www.inv.co.jp/~ike/top_ol-2.html)「最新のトピックス等」に載せましたので、既読の方は多いと思いますが、記事が少ないので当誌に再掲しました、それにしても、時代の流れに寂しさを覚えるのは私だけでは無いでしょう。

「ニイタカヤマノボレ」送信した無線塔、公園に 佐世保 (2009年9月 asahi.com 記事)

太平洋戦争開戦の真珠湾攻撃を命じた「ニイタカヤマノボレー二〇八」という暗号電文を送信したとされる長崎県佐世保市の針尾無線塔一帯を公園化しようと、市が所有者の海上保安庁と協議を始めた。いったん解体が決まったが、築後90年近く過ぎた今も十分な耐震性を持つことを今夏、市教育委員会が確認した。海保側も「国の重要文化財指定に向けた動きが出れば協力する」としている。

無線塔は1922(大正11)年、旧海軍の通信施設として同市の針尾島に完成した。鉄筋コンクリート製の高さ136メートルの柱3本が正三角形に並ぶ。専門家から「当時のコンクリート建築の最高水準」と評価されている。内部はほぼ空洞で、金属製のはしごが取り付けられている。

市の構想では、一帯に見学用通路や案内施設を整え、塔内も見学できるようにする。針尾島には、45～50年に旧満州(現在の中国東北部)や東南アジアなどから140万人の引き揚げ者を受け入れた浦頭港もあり、戦争を振り返る観光資源としたい考えだ。

そのためには、塔の耐久性が前提となる。97年に代替施設が完成し、海保が解体を決めたのを機に保存運動が活発化したのを受け、市教委は昨年末から今年7月にかけて強度を調査した。その結果、鉄筋に腐食はなく、この地域で想定される震度6弱の地震でも倒壊の恐れがないことが判明。市は8月、国に保存を求めることを決めた。今後、重要文化財指定を目指し、近代化遺産としての価値を明らかにする作業に取り組む。



針尾無線塔＝長崎県佐世保市

前号(第75号)の記事「その昔の暗号の話」で「ニイタカヤマノボレ 1208」について触れて

いますが、記事は読んでいただきましたか？

さよなら「ロランC」 南海の孤島、安全支えた半世紀 (2009年12月 asahi.com 記事)

船の位置確認に利用され、海の安全を支えてきた南鳥島(東京都小笠原村)の「ロランC」局が1日午前、廃止された。千葉市中央区にある千葉ロランセンターであった南鳥島ロランC局の閉局式典では、同センターの外館信一所長が無線で合図し、南鳥島ロランCの電波が止められた。

外館所長は「さみしい思いはあるが、時代の流れ。使命を全うした」と話した。

ロランCは、複数のアンテナ局から届く電波の到達時間の差から、航行中の船が自船の位置を割り出すシステム。米沿岸警備隊が1960年ごろから世界各地に設置した。

東京から約1950キロ離れた日本最東端の島「南鳥島」にあるロランC局は、衛星を使った精度の高い全地球測位システム(GPS)の普及を理由に同警備隊が廃止しようとしたため、海上保安庁が93年に引き継いだ。船舶関係者から存続を求める声が相次いだためだ。

GPSの一層の普及でロランCの利用は徐々に減少。海保が2006年に漁船や商船4225隻を対象に行った調査では、ロランCを主に利用する船舶は18隻しかなく、今年5月に廃止を決めた。

海保は南鳥島に3週間交代で職員8人を送り込み、高さ213メートルのアンテナと電波を守ってきた。物資は空輸に頼り、電力は自家発電。飲料水は海水を淡水化してまかなってきた。



南鳥島に立つロランCのアンテナ＝第3管区海上保安本部提供

GPS の他 GLONASS (Russia)、Galileo (EU)、QZSS (JA) 等、衛星測位システムは花盛り、HP には、種々の情報を載せていますが、余り見てもらっていないような気がします、また、TWO-FORTY 誌の記事も殆ど読まないと言う局もあるようで…まあ一部でしょうが。(どうすりゃいいのだ?…SXA 独白)